

株主の皆様へ

第115期 決算のご報告

2023年4月1日～2024年3月31日



株主の皆様へ

株主の皆様には、日頃より格別のご支援とご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第115期（2023年4月1日～2024年3月31日）における当社グループを取り巻く経営環境と事業活動の概況並びに今後の取り組みについてご報告させていただきます。



代表取締役社長

さくら だ たけ し
櫻 田 武 志



当期の経済情勢

当連結会計年度におけるわが国経済は、ウクライナ情勢の長期化や中東情勢の緊迫化など地政学リスクの高まりからくるエネルギー価格の高騰や、円安進行によって物価が上昇傾向にあることから個人消費は停滞してきており、依然として先行き不透明な状況が続いております。



当社グループの業績概況

当社グループの業績概況といたしましては、液晶パネルメーカーの在庫調整が進み、機能性材料セグメントの受注は回復傾向にありますが、顧客であるテープメーカーの生産量低下の影響を受け、産業資材セグメントの受注が減少したことなどから減収となりました。また、高止まりしている原材料費をはじめとしたコスト高騰分を補うべく、価格転嫁を進めてまいりましたが、全てを補うまでには至らず営業赤字となりました。

一方で、親会社株主に帰属する当期純利益は、繰延税金資産の一部取崩による利益下方要因がありましたが、遊休資産となっていた札幌工場跡地売却による特別利益の計上があり、利益を確保することができました。

その結果、当社グループの経営成績は、売上高275億21百万円(前期比1.3%減)、営業損失1億95百万円(前期は営業損失4億68百万円)、経常利益35百万円(前期は経常損失2億36百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益3億48百万円(前期は親会社株主に帰属する当期純損失1億98百万円)となりました。

今後の取り組みについて

軽包装部門につきましては、電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」のアイテムを拡充し、レトルト食品分野や介護食分野への拡販に注力してまいります。非食品分野の化粧品、日用品、医療及び医薬包材にも、高い技術力を活かした新製品を開発、拡販し、売上増加に努めてまいります。また、プラスチック容器包装の廃棄によって生じる様々な環境問題に対処するため、紙や生分解性プラスチックを主原料とする包材の開発や、リサイクルが容易なモノマテリアル化にも積極的に取り組んでまいります。

産業資材部門につきましては、掛川工場WESTの高い生産能力、クリーンな環境という特長を活かし、品質、コスト、納期面で顧客満足の上昇を図り、売上拡大を目指します。シノムラ化学工業とのシナジー効果の総仕上げに向け、抽出した販売、製造、調達の各課題を解決し、収益改善を進めてまいります。

機能性材料部門につきましては、緩やかながら需要が回復傾向にあります。今後、ニーズの高まりが予想される高機能フィルム用途への対応だけでなく、建材などの一般用途にも新たに開発した製品を拡販してまいります。更に顧客密着型の開発体制を強化することにより、保護フィルムだけではなく、部材を含めた様々な開発にも注力し、早期に利益に貢献できるよう努めてまいります。

サステナビリティへの取り組み

当グループでは「サステナビリティ推進委員会」と傘下の事務局が精力的に活動しており、環境面においてはCO₂排出量（燃料・電気）を数字で具体的に把握し、目標を立て、太陽光発電（PPA）やCO₂フリー電力を導入するなど、CO₂排出量の削減を進めております。バイオマスプラスチックを使用した製品やモノマテリアル化といった環境保護をテーマとした研究開発にも積極的に取り組んでおります。また、従業員のスキルを磨くための研修プログラム導入、女性管理職比率や男性の育児休業取得率のアップなど人的資本の拡充にも力を入れております。今後更なる従業員エンゲージメントの向上を目指した活動を、推進してまいります。

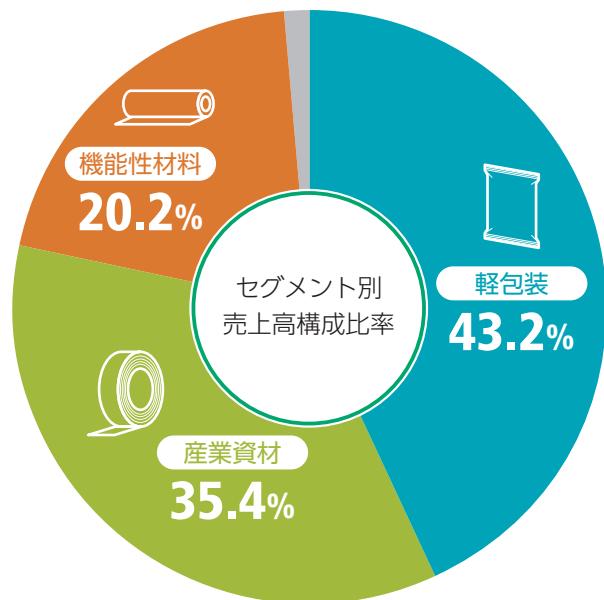
株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2024年6月

決算ハイライト

売上高	▶	275億21百万円 (前期比 1.3%減)
営業損失	▶	1億95百万円 (-)
経常利益	▶	35百万円 (-)
親会社株主に 帰属する当期純利益	▶	3億48百万円 (-)

セグメント別のご報告



■ セグメント別売上高

売上高	275億21百万円
軽包装	118億80百万円
産業資材	97億38百万円
機能性材料	55億57百万円



軽包装



事業内容

食品、医薬品、医療器具、日用品、電子部品、精密機器等の包装材料の製造・販売を行っています。市場ニーズを的確にとらえ、内容物に最も適したパッケージを供給するとともに、自然環境に優しい包材の開発にも取り組んでいます。

当期の概況

巣ごもり需要が収束し、それに伴って電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」をはじめ**食品用包材**は販売数量が若干減少しましたが、価格改定の効果が表れ増収。

医薬品・医療用包材は前年並みの売上高を維持。

日用品等の包材につきましては、大口取引先からの洗剤用パウチの受注が大幅に減少したため減収。

売上高の推移
(単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。



産業資材



事業内容

粘着テープ・ラベル等の基材、剥離紙の製造・販売を行っています。近年は、粘着テープやラベルの用途が多様化・高度化しており、こうした要求に応え、長年にわたり培ってきたラミネート技術や離型剤塗工技術を駆使し、新製品開発を進めています。

当期の概況

環境問題への意識の高まりから、粘着テープを使用しない梱包形態が増加傾向。この影響を受けて国内テープメーカーの販売数量は減少しており、粘着テープ基材としての紙・布へのラミネート製品も受注が減少し減収。

剥離紙につきましては、自動車関連用途向けや建材関連用途向けの受注回復が遅れておりますが、中国家電メーカー向け両面テープ用途の受注が増加し増収。

売上高の推移

(単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。



機能性材料



事業内容

粘着塗工タイプ、2層押し出しタイプ、精密塗工タイプに分類される各種表面保護フィルムの製造・販売を行っています。フラットパネルディスプレイ向け偏光板や輝度向上フィルム等の光学用途から建材用途に至るまで、様々な部材を加工時・輸送時・保管時のキズ・ホコリ・汚染から保護します。

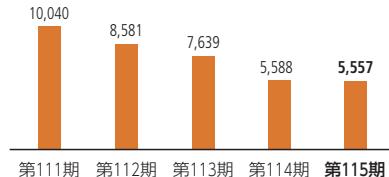
当期の概況

オレフィン系粘着加工品は、アフリカ（大陸）向けスマートフォンの出荷増加にけん引されて、同用途向けの表面保護フィルムの受注が増加したことなどから増収。

その他の粘着加工品は、大口取引先向け製品の仕様変更等の影響で当社の表面保護フィルムの受注が減少したため減収。

売上高の推移

(単位:百万円)



※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	前期末 2023年3月31日現在	当期末 2024年3月31日現在
資産の部		
流動資産	22,408	22,950
現金及び預金	6,262	7,317
売上債権	10,883	10,579
棚卸資産	4,987	4,840
その他	274	212
固定資産	13,202	14,489
有形固定資産	6,835	6,723
無形固定資産	40	87
投資その他の資産	6,327	7,678
資産合計	35,611	37,440
負債の部		
流動負債	12,700	12,696
仕入債務	6,920	6,919
短期借入金	3,630	3,690
その他	2,149	2,086
固定負債	2,431	3,142
長期借入金	883	412
その他	1,548	2,729
負債合計	15,132	15,838
純資産の部		
株主資本	17,739	17,808
資本金	2,176	2,176
資本剰余金	2,238	2,238
利益剰余金	13,558	13,714
自己株式	△232	△320
その他	2,739	3,793
純資産合計	20,479	21,602
負債純資産合計	35,611	37,440

Financial Statements

連結損益計算書

(単位:百万円)

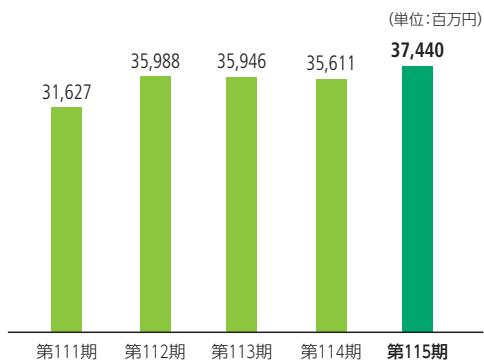
科目	前期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで	当期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
売上高	27,870	27,521
売上原価	25,287	24,656
売上総利益	2,582	2,864
販売費及び一般管理費	3,051	3,059
営業損失	△468	△195
営業外収益	267	274
営業外費用	35	43
経常利益(△は損失)	△236	35
特別利益	7	967
特別損失	68	3
税金等調整前当期純利益(△は損失)	△297	999
法人税、住民税及び事業税	30	139
法人税等調整額	△121	487
非支配株主に帰属する当期純利益(△は損失)	△7	24
親会社株主に帰属する当期純利益(△は損失)	△198	348

連結キャッシュ・フロー計算書

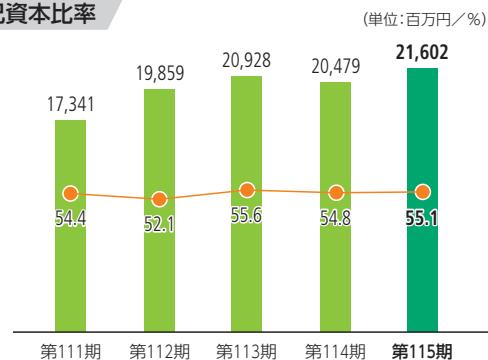
(単位:百万円)

科目	前期 2022年4月1日から 2023年3月31日まで	当期 2023年4月1日から 2024年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△467	1,267
投資活動によるキャッシュ・フロー	△203	630
財務活動によるキャッシュ・フロー	△373	△821
現金及び現金同等物に係る換算差額	7	8
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△1,037	1,085
現金及び現金同等物の期首残高	7,185	6,148
現金及び現金同等物の期末残高	6,148	7,233

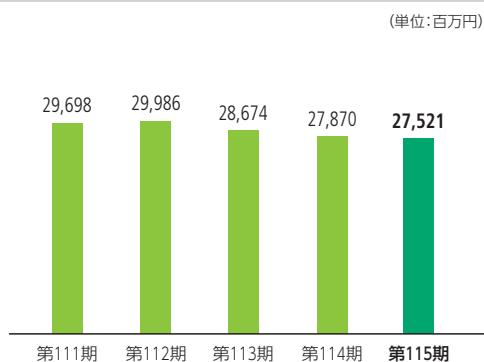
総資産



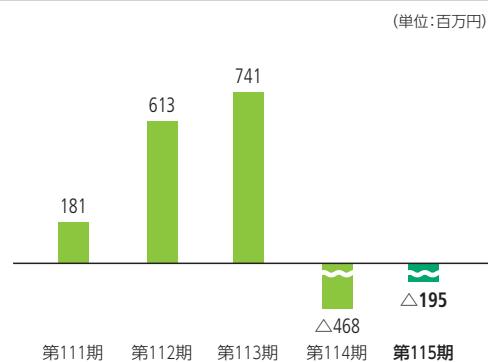
純資産 / 自己資本比率



売上高

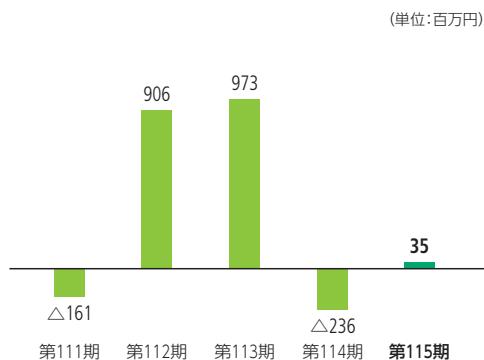


営業利益

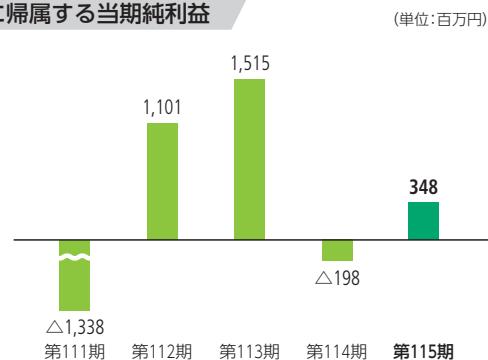


※第113期より「収益認識に関する会計基準」が適用されております。

経常利益



親会社株主に帰属する当期純利益



市場開拓が進む「環境配慮型製品」のご紹介

当社のフィルムテクノロジーは、産業を支える部材から、皆様の豊かな暮らしをサポートする食品、医療・医薬品、日用品などに使用される包装資材まで、幅広いジャンルでご要望にお応えしています。その中でも、近年は様々な「環境配慮型製品」の開発に注力しています。これまでに培われた高度な技術開発力を礎に、より環境に優しい製品を創出してまいります。



耐内容物包材

「プラピカ®」



特徴

“刺激の強い内容物”に高い耐性

内容物が貼り合わせ箇所浸透して包材がダメージを負ってしまった場合、従来の包材では内容物が漏れてしまう危険性がありました。耐内容物包材「プラピカ」は特殊な材料を使用することで、この問題を抑制することが可能です。種々のラインナップを取り揃えており、内容物の種類に応じた最適な構成をご提案できます。

従来の金属缶や樹脂製ボトルを**軟包装**に代えることができます。

従来



金属缶

樹脂製ボトル

- 容器がかさばる = 資材倉庫を圧迫・輸送効率悪い
- 容器が重い = 輸送効率悪い
- 輸送時の振動・衝撃で缶が凹む(クレーム原因)
- 廃棄しにくい

プラピカ



スパウト付パウチ・三方袋etc.

- かさばらない・軽い = コンパクトに保管・輸送効率良い
- 缶の凹み解消
- 廃棄が楽・ゴミの容量減
- 使用材料(金属や樹脂)削減=環境負荷低減
- 印刷適性良好にて意匠性向上

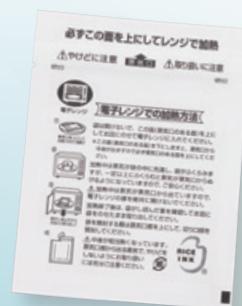
完全密封電子レンジ調理パウチ

「レンジDo!®」



紙を基材とした
電子レンジ対応食品包材

紙構成タイプ



植物由来の原料を使用した
環境配慮型パッケージ

バイオマスPEタイプ

- 植物由来の原料を配合して製造されたバイオマスPEを使用しています。
- バイオマス素材の配合率は10%以上です。(PE層単体における数値)
- 石油由来のPEと比較してCO₂排出量の削減効果が期待できます。
- 冷凍食品～ポイル殺菌用(90℃まで)のレンジDo!としてお使いいただけます。
- バイオマス度20%、30%タイプも開発中です。

- 基材に紙を使用した電子レンジ対応食品包材です。
- 紙の重量=50%超のため、表示をすることができます。
- 従来のレンジDo!と同様、完全密封包装をしたまま電子レンジ加熱が可能です。
- 紙構成タイプに変えることで、従来品と比較して約26%のプラスチック削減効果があります。
- ライスインキやバイオマスインキなど植物由来インキでの印刷にも対応しています。



チルド・冷凍流通環境に
対応

耐熱タイプ

- 特殊なCPPの採用により、長時間のレンジ加熱によるシール後退を防ぎます。
- 殺菌はレトルトまで対応しています。
- レトルト殺菌+冷凍流通に対応することでフードロス削減に貢献します。



「レンジDo!」に
酸素吸収機能をプラス

酸素吸収タイプ

- 袋内の酸素を除去することで、内容物のロングライフ化(退色防止・風味保持効果)が期待できます。
- ホット充填、ポイル加熱食品、レトルト食品、冷凍・チルド流通食品等、幅広い用途へ適用できます。
- 平袋タイプ(T型)、スタンドパウチタイプ(ST型)、平置ワイドタイプ(W型)の全ての形状で可能です。



■ 配当金について

当社は、株主の皆様への利益還元を経営の最重要政策の一つとして位置づけており、将来の事業展開と企業体質の強化に備えて必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を行うことを基本方針としています。

この方針の下、第115期（2024年3月期）の期末配当金につきましては、1株当たり金9円とすることといたしました。

これにより、第115期の年間配当金は、中間配当金9円と合わせて、1株当たり金18円となりました。

1株当たり配当金

(単位:円)



*創立80周年の記念配当2.5円を含む。

■ IR カレンダー



株式の状況・会社概要

2024年3月31日現在

株式の状況

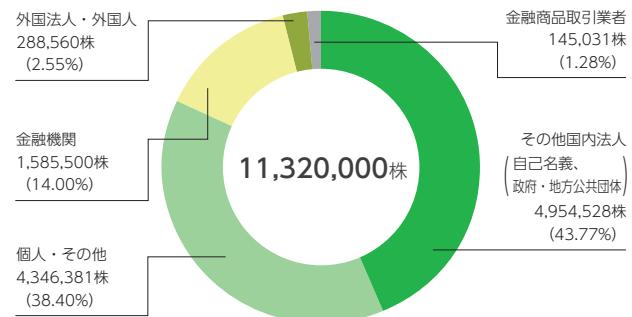
発行可能株式総数	45,000,000株
発行済株式の総数	11,320,000株
株主数	2,800名

大株主の状況

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	持株比率(%)
新生紙パルプ商事株式会社	1,812,200	17.18
昭和パックス株式会社	1,244,200	11.79
サンエー化研社員持株会	409,500	3.88
株式会社三菱UFJ銀行	310,000	2.93
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・昭和パックス株式会社口)	300,000	2.84
みずほ信託銀行株式会社 (退職給付信託 昭和パックス株式会社口)	300,000	2.84
株式会社みずほ銀行	200,000	1.89
山田美千代	121,000	1.14
鈴木靖子	117,000	1.10
株式会社東洋化学	116,000	1.10

1. 当社は、自己株式を774,893株保有しておりますが、上記の大株主から除いております。
2. 持株比率は自己株式(774,893株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



Stock Information & Corporate Data

会社概要

商号	株式会社サンエー化研
本社所在地	東京都中央区日本橋本町1-7-4
事業所	関西支店、名古屋営業所、台北営業所 静岡工場、袋井工場、掛川工場、掛川工場WEST、 奈良工場 R&Dセンター
設立	1942年9月
資本金	21億76百万円
従業員数	485名
主な事業内容	紙、プラスチック、金属箔等を主原材料とする 軽包装材料、剥離紙、粘着テープ基材、表面保護 フィルム等、包装材料関連製品の製造及び販売

連結子会社

東邦樹脂工業株式会社	本社・工場／栃木県下都賀郡野木町野木148
シノムラ化学工業株式会社	本社・工場／静岡県袋井市国本291
灿櫻(上海)商貿有限公司	中国上海市長寧区虹橋路

役員

代表取締役会長	山本明広	社外取締役	野口隆一
代表取締役社長	櫻田武志	社外取締役	宮本貞彦
取締役	芝彦尚	常勤監査役	佐藤誠一
取締役	山本元	社外監査役	井上眞樹夫
		社外監査役	湯口毅

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
配当金受領株主確定日	3月31日(期末配当) 9月30日(中間配当)
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 TEL 0120-232-711(通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東証スタンダード市場
公告の方法	電子公告により行います 公告掲載URL https://www.sun-a-kaken.co.jp (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします)

株式事務に関するお問い合わせ

- (1)住所変更、配当金の振込指定、単元未満株式の買取請求等のお申出先について
証券会社に口座を開設されている株主様は、当該証券会社にお問い合わせください。
証券会社に口座がないため特別口座に記録されている株主様は、上記の特別口座の口座管理機関(兼株主名簿管理人)である、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部にお問い合わせください。
- (2)払渡期間経過後のお取り扱い
配当金領収証の裏面に受取方法を指定し、三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部までご郵送いただくか、同銀行全国各支店窓口にてお受け取りください。

ホームページのご案内

当社の詳細なIR情報は、ホームページをご覧ください。

当社ホームページの〈IR情報〉では、詳細な情報を掲載しております。

また新製品情報をはじめ、業務内容や最新の企業情報、展示会情報等についてもご覧いただけます。

URL ▶ <https://www.sun-a-kaken.co.jp>

